

朝熊岳道 (宇治岳道・朝熊村岳道)

朝熊岳道の概要

朝熊ヶ岳の山頂付近にある金剛證寺は、天長2年(825)に空海が創始したと伝えられる。空海がこの山で修行していたある朝、熊が現れ、夕方には虚空蔵になっていたため朝熊ヶ岳の名が付いたという。平安後期には虚空蔵信仰と天照大神を祀る伊勢信仰とが結びついて寺勢を伸ばし、伊勢神宮の北東に位置することから、神宮の鬼門を護る霊場とされた。中世末期頃から庶民のあいだに広まった伊勢参りでは、「伊勢へ参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」とうたわれ、多くの人々で賑わった。本堂や木造雨宝童子立像などは重要文化財に指定されている。

また、伊勢志摩近郊では、この山が亡き人の霊が集まる場所として信仰され、「岳参り」と呼ばれる参詣が行われたため、伊勢方面をはじめ鳥羽・志摩方面などさまざまな方向から金剛證寺へと続く道が開かれた。そのうち現在もよく道が残っているのは、

かつて伊勢神宮内宮から金剛證寺に参詣するルートだった宇治岳道と、近鉄朝熊駅近くから出発する朝熊村岳道である。

宇治岳道は、なだらかな尾根道をゆつくりと登り、およそ3時間で金剛證寺を経て朝熊ヶ岳の山頂に至る。朝熊村岳道は、宇治岳道より勾配が急峻で、登山口から1時間半ほどかけて山頂に至る。

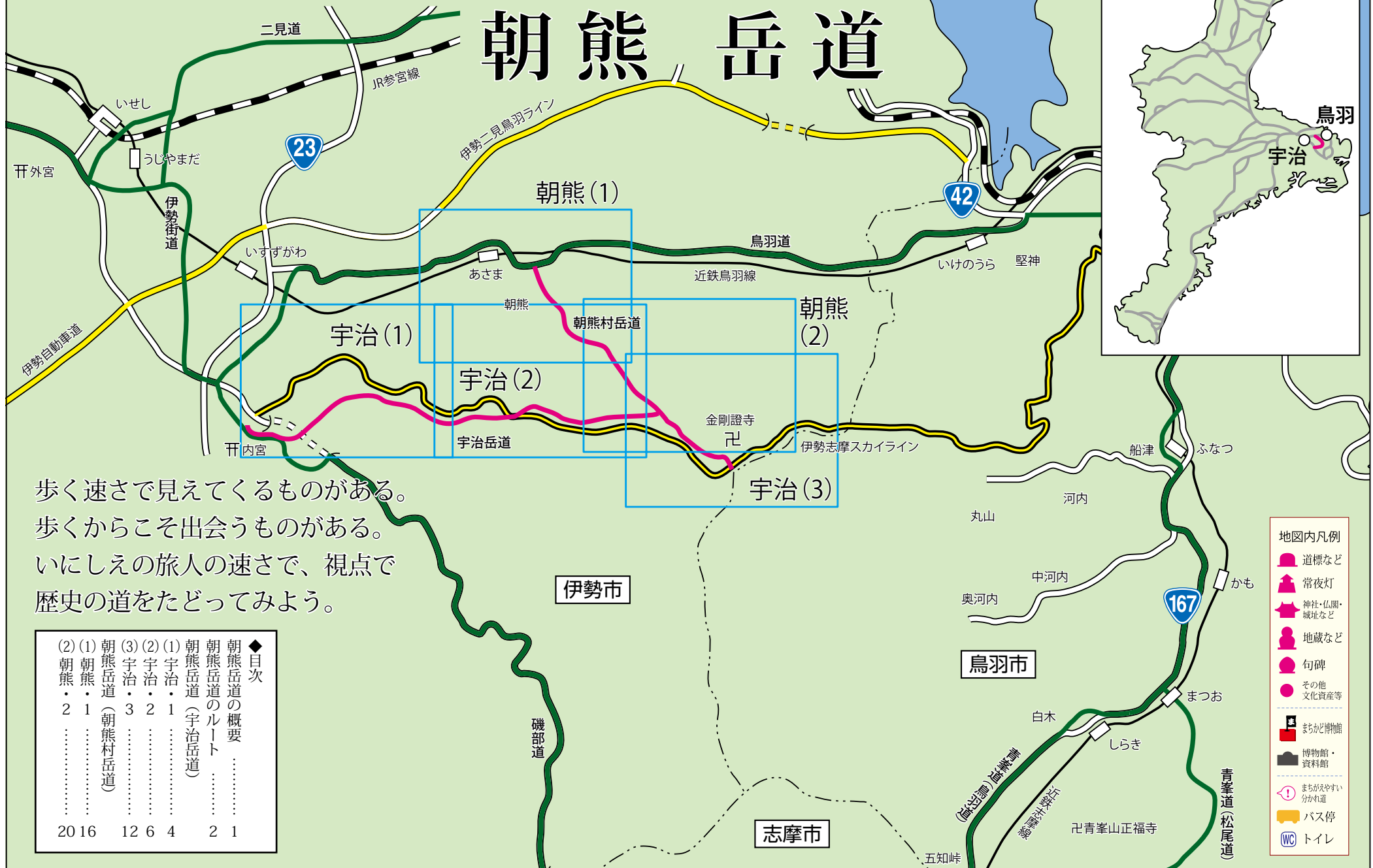
杉やヒノキの針葉樹に覆われた岳道は、約109メートルごとに「一町」「二町」の距離を現す町石や町石地蔵などが路傍に立ち、参道の雰囲気は漂う。中腹を過ぎると視界が開け、五十鈴川や宮川が流れる伊勢のまちや伊勢湾などが眼下に見晴らせる。

宇治岳道と朝熊村岳道は、朝熊峠で合流し、ここから金剛證寺や朝熊ヶ岳山頂まではあとわずか。山頂には電波塔と八大龍王社があり、入り組んだ海岸線の向こうに、たくさん島々が見渡せる。冬の澄んだ朝には、答志島と神島の間に富士山が見えることもあるという。



美しい針葉樹に彩られたもう一つの 伊勢参拝の道。

朝熊 岳 道



(1)宇治 1 (伊勢市宇治館町～一字田町)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがしやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



1 宇治橋
五十鈴川にかかる長さ約102mの総檜造りの橋。橋の両側に立つ二つの鳥居は、内宮・外宮の正殿の旧棟持柱で作られる。



2 五十鈴川



3 道標
文政13年(1830)のもの。「東 文政十三年庚寅 九月吉日(施主名一〇名)」「南 右あさみち六十二丁いそべみち三三半」「西 左二見浦百丁」「北 大坂守万寿壽講(施主名一〇名)」という文字が各面に刻まれている。



4 子安神社
神宮125社



5 大山祇神社
神宮125社



6 道標
寛永三年(1626)のもの。「寛永三丙寅年(梵字)朝熊岳道 二月吉日」と刻まれている。



7 一丁 町石地蔵



8 三丁 町石地蔵
台座のみ残っている。



11 大黒石



12 地蔵の茶屋跡
江戸時代～昭和15年ころのもので、今は石垣が残る。



13 十一丁 町石地蔵



14 十五丁 町石地蔵
同じ町数の地蔵が2体ある。



15 五丁 町石地蔵



16 十六町 角柱型町石
「十六町」「武州江戸田所町 施主秋原三郎右衛門」「江戸本八町堀松屋町 石工小川久兵衛」と刻まれている。



9 地蔵
「勢度会郡朝熊道」「元戊辰年十一月吉日明道行門」と刻まれている、首の所にひびがはいっている。



10 十町 角柱型町石



17 碑

伊勢街道

近鉄鳥羽線

伊勢志摩スカイライン

鳥羽道

三十分

約180m

神宮司庁の駐車場沿いの道を登っていく。

このあたりは、道が荒れている。

(2)宇治 2・A

(伊勢市一字田町～朝熊町)



7 三十二丁 町石地藏
首から上の部分しかない。



8 三十丁 町石地藏



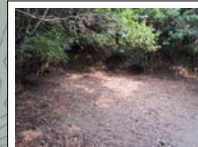
9 三十町 角柱型町石
「三十町 武州江戸田所町 施主秋原三郎右衛門」と刻まれている。



5 二十九町 角柱型町石



6 四丁 町石地藏



10 一字田茶屋跡



11 三十一丁 町石地藏



3 町石地藏
町数は不明で、頭部に自然石で顔がつけられている。



4 二十六丁 町石地藏
同じ町数の地藏が2体ある。



1 地藏二体



2 二十五丁 町石地藏

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがしやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

約 1100 m

伊勢志摩スカイライン

この部分は
8・9・10 ページ
をご覧ください

(2)宇治 2・B

(伊勢市一字田町～朝熊町)

この部分は
7 ページを
ご覧ください



8 丁数不明の地藏
自然石の頭がつけられている。



9 三十五丁 町石
地藏



10 丁数不明の地藏
三十五丁 町石地蔵の隣。「丁」のみ見える。



11 二十七丁 町石地藏



12 三十六丁 町石地藏

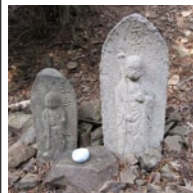
この部分は
10 ページを
ご覧ください



4 三十一丁 町石地藏



5 三十三丁 角柱型町石



6 三十四丁 町石地藏



7 三十三丁 町石地藏
地藏の膝あたりにひびがはいている。



1 三十二丁 角柱型
町石



2 三十三丁 町石地蔵



3 二十八丁 町石地藏

朝熊山道
(朝熊村山道)

約 1100 m

伊勢スカイ
ラインを陸橋で
渡る。眺望が
良い。

伊勢志摩スカイライン



13 三十八丁 町石地藏



14 三十九丁 町石地藏



15 四十丁 町石地藏

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(2)宇治 2・C

(伊勢市一字田町～朝熊町)



1 四十一丁 町石地蔵



2 四十二丁 町石地蔵



3 地蔵
上半分が折れてない。



4 四十三丁 町石地蔵



5 四十四丁 町石地蔵



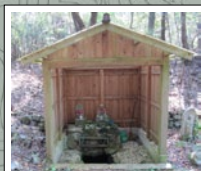
6 四十五丁 町石地蔵



7 四十四丁 町石地蔵
光背の上部が少し欠けている。



8 四十六丁 町石地蔵
同じ丁数の町石地蔵が2体ある。



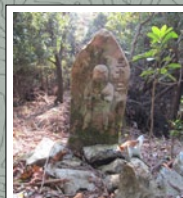
9 弘法井戸
小屋の中にある。



10 四十七丁 町石地蔵
頭から下は土に埋まっている。



11 二丁 町石地蔵



12 三十七丁 町石地蔵

この部分は
7・8・9ページ
をご覧ください

朝熊山道
(朝熊山道)



15 町石地蔵類
四十五丁、四十八丁、四十九丁が2体、五十丁、四十七丁、町数不明が3体。全部で9体。



14 四十八丁 町石地蔵



13 四十七丁 町石地蔵
「四」の文字は欠けている。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがしやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

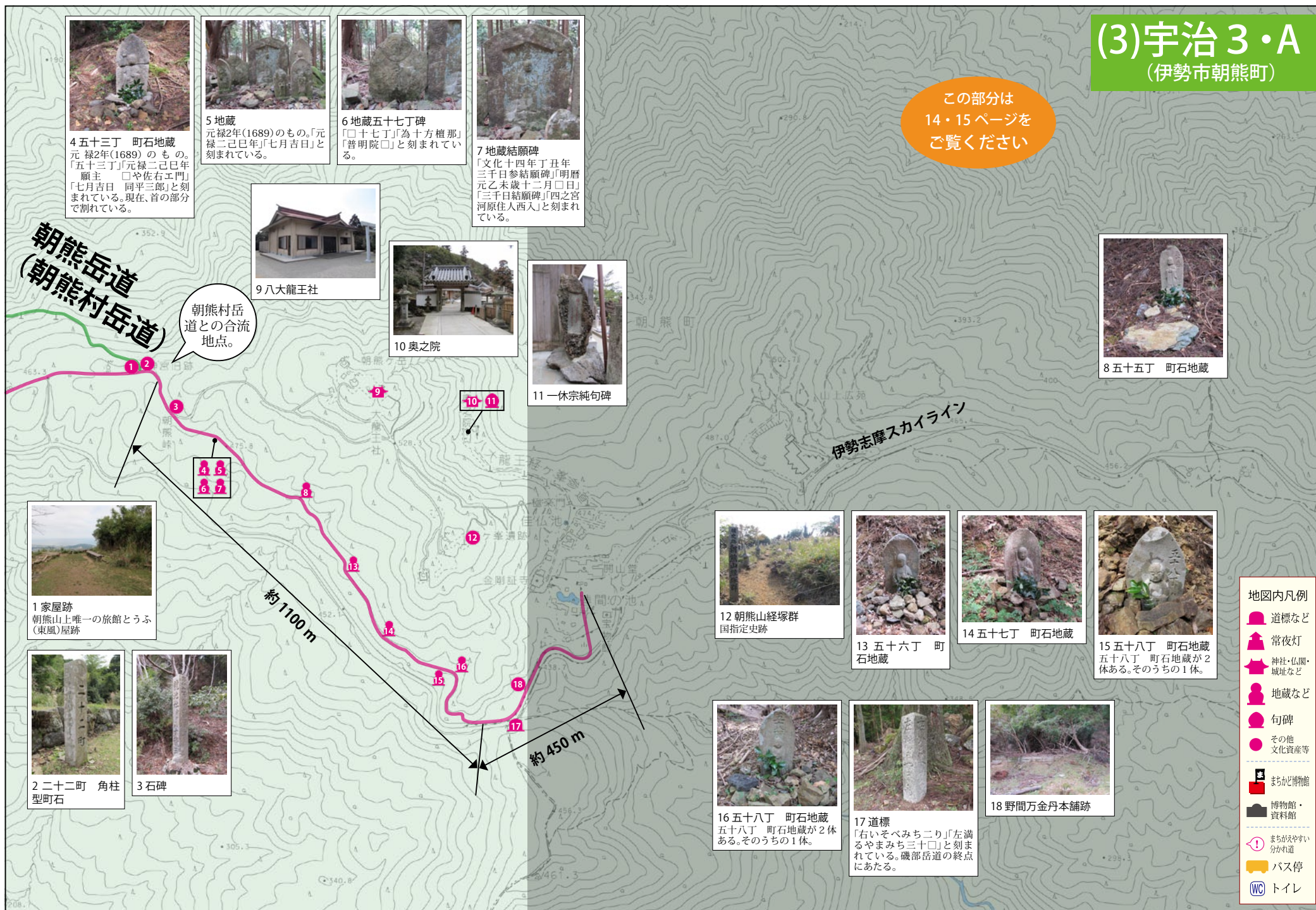
約1100 m

伊勢志摩スカイライン

このあたりから道が平坦になる。

(3)宇治 3・A (伊勢市朝熊町)

この部分は
14・15 ページを
ご覧ください



(3)宇治 3・B

(伊勢市朝熊町)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化遺産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

朝熊岳道
(朝熊村岳道)



3 地蔵
「元禄九年三月十三日」「尾州名護屋住口尼妙意」と刻まれている。



2 五十丁 町石地蔵



1 九鬼嘉隆の五輪塔



4 千日参碑
宝永7年(1710)のもの。「千日参供養出羽国終營祐心」「三界万霊佛果菩提」「宝永七庚寅年四月十五日」と刻まれている。



5 地蔵



6 五十四丁 町石地蔵



7 千日参碑
「享保九年甲辰稔霜月十五日」「奉納大乗妙典六十六部」「内宮外宮朝熊岳千日参」「志州答志郡坂崎村住沙門句性」と刻まれている。



8 結願碑
「奥州南部志和郡山南目指」「村盛道与平伊勢熊野高野」「七度詣参之願今年已成就」「彫茲石上建朝熊岳仰子孫」「繁榮而巳」「寛文二十壬子年七月十六日」と刻まれている。



9 六十町 角柱型町石
延享3年(1746)のもの。「六十町」「延享三丙寅歳正月吉日 住持玉堂代」「施主武州江戸町所町秋原三郎右衛門」等と刻まれている。宇治岳道登り口から移されたものである。



10 松尾芭蕉句碑



11 金剛證寺
朝熊山山頂にあり、伊勢神宮の鬼門を守るといわれる古刹。弘法大師が真言密教の道場として天長2年(825)に建立したと伝えられる。現在は臨済宗。本堂は国指定重要文化財であり、国宝の朝熊山経ヶ峯経塚出土品のほか数多くの文化財がある。伊勢西国三十三所観音霊場第2番札所。



12 道標
「左さんけい道これより三丁」と刻まれている。



13 荒木田武邦の歌碑



14 五十九丁 町石地蔵



15 下乗の標石



16 極楽橋
下里信種が寄進したものである。



17 一休宗純句碑



18 内藤まさを句碑



19 野田礪堂句碑



20 金剛證寺宝物館

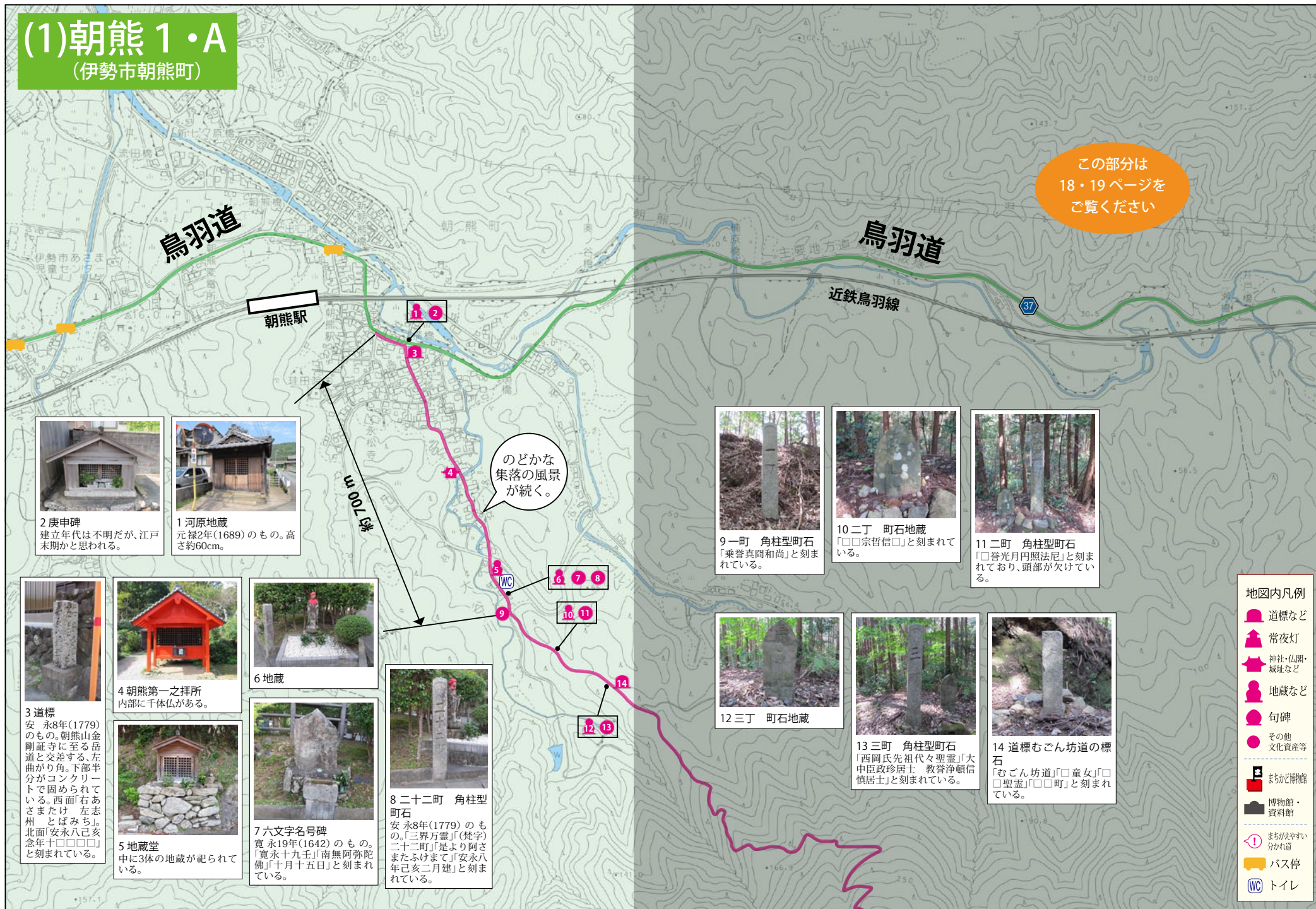
この部分は
13 ページを
ご覧ください

約1100 m

約450 m

(1)朝熊 1・A

(伊勢市朝熊町)



地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(1)朝熊 1・B

(伊勢市朝熊町)

この部分は
17 ページを
ご覧ください

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがしやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



1 朝熊山神社



2 四丁 町石地蔵
四町 角柱型町石の上方の丘の上にある。



3 四町 角柱型町石
「松葉氏先祖代々聖霊」と刻まれている。



4 五丁 町石地蔵



5 五町 角柱型町石
「村田氏先祖代々聖霊」「増井氏先祖代々聖霊」と刻まれている。



6 六町 角柱型町石
「勝谷貞因信女」「田川氏一切精霊」と刻まれている。



7 地蔵
「□□智光信女路」と刻まれており、光背型が半欠している。



8 七町 角柱型町石



9 供養碑



10 種子碑
万治3年(1660)のもの。



11 八町 角柱型町石
「三界万霊」と刻まれている。



12 地蔵



13 供養碑
「五千日供養 四之宮河原西入 万治四年辛丑年 六月朔日」と刻まれている。



14 神楽の窯

急峻な登り道が続く。

(2)朝熊 2・A

(伊勢市朝熊町)



1 九町 角柱型町石
「中川吉道」「中川吉弘」と刻まれている。



2 供養碑
寛文2年(1662)のもの、「江戸赤坂伝馬町二丁目いせや七左衛門」「逆修」「寛文二壬寅年 九月廿四日」と刻まれている。



3 地藏
「妙閑信女」と刻まれており、頭部が欠損している。



4 十一町 角柱型町石
「門答惠先和尚」「三界万霊」と刻まれている。



5 十一丁 町石地藏



6 十三丁 町石地藏



7 供養碑
安永7年(1778)のもの。荒い石積みの上に「三界万霊」「俗名堀田辰治郎 行年七才」と刻まれた台石を置き、上部に地藏菩薩(頭部欠損)を祀る変形の供養碑。



9 十三町 角柱型町石
「随誉相真信士」「暢誉妙宣信女」と刻まれている。



10 十四町 角柱型町石
「永来氏先祖代々聖霊」と刻まれている。



11 十五丁 町石地藏



12 十五町 角柱型町石
「紀伊国屋先祖代々聖霊」と刻まれている。



13 十六町 角柱型町石
「小西家先祖代々聖霊」と刻まれている。



14 十七町 角柱型町石
「道順」「真薫」と刻まれている。



15 十七丁 町石地藏



8 十二町 角柱型町石
「森島氏先祖代々聖霊」「華譽委春大姉」と刻まれている。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

朝熊岳道
(宇治岳道)

この部分は
22・23 ページを
ご覧ください

(2)朝熊 2・B (伊勢市朝熊町)



1 十八町 角柱型町石
平成4年(1992)のもの。



2 石柱
下部のみ残る。平成4
年の町石の隣。



3 地藏
元禄4年(1691)のもの。
「心啓安定信士」「元
禄四年辛未年十一月廿
三日」と刻まれている。



4 十九丁 町石地藏



5 地藏
木の根元の石の祠のような
所に祀られている。



6 地藏



7 十九町 角柱型
町石



8 廿丁 町石地藏



9 二十町 角柱型
町石



10 廿一丁 町石地藏



11 二十一町 角柱
型町石



12 廿二丁 町石地藏



13 二十二町 角
柱型町石

この部分は
21 ページを
ご覧ください

朝熊岳道
(宇治岳道)

宇治岳道と
の合流地点。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・
城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他
文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・
資料館
- まちがえやすい
分かれ道
- バス停
- トイレ